

○デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業の効果検証状況一覧

資料 2

事業名	K P I	基準額 (事業開始時点・R4年度)	R5年度	R6年度	R7年度	達成 状況	担当課効果検証結果
			目標値	目標値	目標値		
			実績値	実績値	実績値		
オール門真による「ものづくり」ブランディング事業 (事業概要) 本市の基幹産業である製造業について、その魅力を向上させ、就業者並びに大手企業・進出企業に訴求可能なブランディング戦略を実行することを核とするものである。 (市対象事業) ①製造業としての「門真ブランド」の発信事業・機械要素技術展大阪への出展 ②「製造業で働く」魅力の向上発信事業・門真市「職住近接のまち」実現のための企業魅力アップ事業補助金の実施 ③「オール門真」での連携支援体制の構築事業・「門真市ものづくり産業振興計画」の策定及び「門真市ものづくり産業振興懇話会」の設置 (事業費) 25,566,965円 (※補助金額は、1/2の12,676,982円)	①市外から門真市に対する新規マッチングによる成約金額	0円	31,020,000円	32,054,000円	33,080,000円	未達成	【現状認識（事業実施効果等）】 令和5年10月4日から6日にかけて開催された第26回機械要素技術展大阪に市内企業13社（会場出展12社、オンライン出展1社）による合同出展を行った。大手メーカー等の購買担当者、技術者、マーケティング担当者等、本市ブースへの来場者数は3日間で4245名となり各出展企業毎に活発な商談が行われた。 さらに、ブース内には、本市製造業のブランディングを推進するため、カドマイスター企業62社すべてを掲載したパネルや、本市のもつ交通便利性、豊富な周辺人口、濃密な産業集積とその連携関係、層の厚い支援等をPRするパネルの掲示を行い、「ものづくりのまちとしてのブランド醸成を行うとともに、プレゼンスベースにおいて、出展企業、市長、市職員がそれぞれのPR動画等を用いプレゼンを行うことで、本市ブースへの来場者以外にも足を止めて、話を聞いてもらえるようPRを行った。 【今後の見通し】 令和6年4月時点で65社となったカドマイスター企業のうち、従業者数や現場状況等の制約から、会場出展が難しい企業等に出席してもらうべく用意したオンライン枠の活用企業を増やしていくことが、より市内の製造業のアピールや新規マッチングによる成約金額の増加につながると見込まれる。 【今後の対応策（事業改善予定等）】 令和6年度においても、同様の規模にて出展を実施し、本市及び本市製造業のブランディングを推進するとともに、出展企業やそれ以外のカドマイスター企業へのビジネスマッチングを支援することで、市内製造業全体への波及効果を生み出す。また、よりオンラインでの出展がしやすい環境を整えることで、オンライン出展企業が増えるような仕組みを検討する。
			5,495,775円				
	②支援を実施した事業所における従業者増加数	0人	20人	42人	64人	達成	【現状認識（事業実施効果等）】 令和5年度は10社（11件）の支援を実施。女性専用設備や、従業員休憩室といった設備整備のほか、アシストツールの導入、外国人労働者とのコミュニケーションツールとしてラジオ体操の場内放送システムの導入に至るまで、人材確保・育成を見据えた、労働環境の整備の費用の一部補助を行った。また、人材確保・育成を見据えたオープンファクトリーの実施など魅せる工場実現のための費用の一部補助についても行った。支援を実施した事業所全体での新規雇用者数は29人で、男性20人（うち外国人1人）、女性9人（うち外国人1人）であり、多様な人材の確保につながったと認識している（なお、離職者等が5人いたため、KPIの増加数は24人となっている）。 【今後の見通し】 風気拡大により売り手市場が進むこと、また今後も少子高齢社会の更なる進行が見込まれることで、とりわけ中小企業にとって人材確保はますます厳しくなるものと見込まれる。 【今後の対応策（事業改善予定等）】 高齢者や女性、外国人といった多様な人材の確保や、その職場で長く活躍できるように職場環境の整備に積極的に取り組む事業者に対し支援を実施していくとともに、求職者に対し企業の魅力を伝え、将来の職場として選んでもらえるような魅せる工場の実現に対して支援を実施し、市内事業所における従業者数の増加を支援する。本事業で創出したロールモデルの積極的な展開により、全体への波及をめざす。
			24人				
③支援を実施した事業所におけるインターンシップ受入れ増加数	0人	10人	22人	32人	未達成	【現状認識（事業実施効果等）】 令和5年度において、門真市「職住近接のまち」実現のための企業魅力アップ事業補助金により支援を実施したインターンシップの受入れはなかった。企業へのヒアリング等の調査では、「そもそも中小企業に応募する学生の絶対数が少ないことがわかった。また、学校へのヒアリングではインターンシップを希望する学生は一定のもの、「インターンシップについても、依然として大手志向があり、学生からすると中小企業は企業情報などが把握しづらく、インターンシップを受けに行く企業選びが難しい」とことが判明した。 【今後の見通し】 学生からインターンシップ先を選ばれる企業となるためには、企業自体の知名度や企業情報など、学生が働いてみたいと思えるような魅力を打ち出していく必要がある。あわせて企業に対し、インターンシップまでの手続きを含めた道筋を積極的に情報提供していく必要がある。 【今後の対応策（事業改善予定等）】 現在、学生がインターンシップ先を選定・応募するにあたり、「大学コンソーシアム大阪」のキャリア支援プログラムを経由することが趨勢を占めていることから、企業側に対しては「特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪」のキャリア支援プログラムに登録することを勧めつつ、学校とも意見交換等を実施し、学生の市内企業へのインターンシップを促していく。また、門真市ものづくり企業ネットワークや門真市中小企業サポートセンターなど市独自事業とも連携し、学生にインターンシップ、ひいては就職先を選ばれるよう、企業の情報発信や、学校、学生との交流等により注力する。 令和6年度から摂南大学の単位認定プログラム さらに、令和6年度からの本事業改善として、アンケート（株式会社学情が2024年3月卒業予定の大学生・大学院生を対象に行った、就職活動に関するインターネットアンケート）の結果、7割弱の学生が「企業がSDGsに取り組んでいることを知り、志望度が上がる」といった結果が出ており、学生に選ばれる企業となるためにはSDGs達成への取組を行うことが必要と考えられる。そのため、SDGsの取組、とりわけ本市が推進する製造業の脱炭素化への支援を拡充することにより、学生に選ばれるような企業の魅力向上をより効果的なものとする。	
④支援を実施した事業所における一般見学者の受入れ人数	0人	56人	233人	233人	達成	【現状認識（事業実施効果等）】 オープンファクトリーイベント「FactorISM（ファクターイズム）」への参加企業は11社となった。令和5年度は10月26日から29日までの4日間で、各企業が工場見学やワークショップを開催するなど、企業の事業内容のPRや、ものづくりの魅力を一般の方向に伝えることができた。 【今後の見通し】 2025年には、大阪・関西万博が開催に際し、国内国外問わず多くの来場者が見込まれることから、オープンファクトリー開催企業への見学者も増えていくと推察される。また、万博後についてもオープンファクトリーの取組を進めていくことが重要であると考えられる。 【今後の対応策（事業改善予定等）】 市内企業とものづくりの魅力やPRし、多くの一般見学者に会場してもらうために、見に行きたくなる、働きたくなるような職場や製品をPRする「魅せる工場」実現のために門真市「職住近接のまち」実現のための企業魅力アップ事業補助金により支援を実施する。	
		230人					